

サツマイモ「なんたん蜜姫」優良系統の選抜

～外観、収量、糖度の優れた2系統を選抜～

1. はじめに

串本町では、肉質が粘質で甘みが強い在来のサツマイモを、「なんたん蜜姫」の商標名でブランド化に向けた取り組みが行われている。しかし、形質の異なる系統が混在していることがブランド化の妨げていることから、地元生産者団体や東牟婁振興局と共同で品質の優れた系統を選抜した。

2. 材料および方法

供試系統は現地生産者から収集した系統のうち、外観や果肉色、糖度を基準に一次選抜した8系統を用いた。試験は2012年に農業試験場(以下、紀の川市)および串本町現地(以下、串本町)のそれぞれの露地ほ場で行った。紀の川市では、定植を5月16日、収穫を10月29日に、串本町では、定植を6月5日、収穫を11月5日に行った。外観は生産者を交え達観で評価した。収量は加工用：400g以上、レギュラー：150g以上400g未満、ミニ：100g以上150g未満、規格外：100g未満に分けて塊根の重量を調査した。糖度は紀の川市では収穫39日後に、串本町では収穫30日後に調査した。

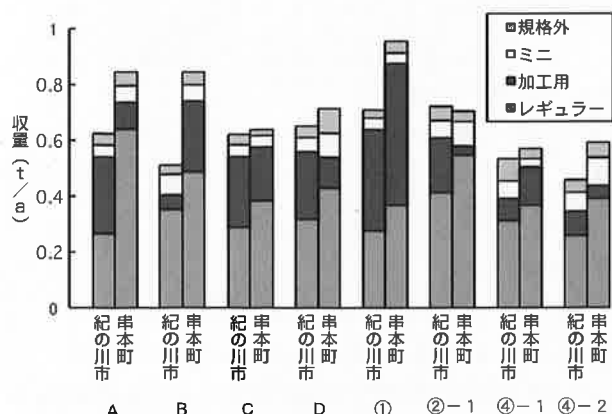


図1 供試系統の収量

注1) 紀の川市：うね幅100cm、株間30cm、栽植密度330株/a
串本町：うね幅90cm、株間30cm、栽植密度363株/a、
注2) A～D、①、②-1、④-1、④-2は一次選抜された系統名

3. 結果

レギュラーの収量は紀の川市と串本町の双方でBと②-1が多く、串本町でAが多くなった(図1)。糖度はB、C、②-1、④-1、④-2が紀の川市と串本町ともに高くなった(図2)。塊根の形状は、C、②-1が長紡錘形で市場性が高いと考えられた(図3)。

以上のことから、塊根の形状が優れ、レギュラーサイズの収量が多い「②-1」と、塊根の形状が優れた「C」の2系統を選抜した。

2013年からは選抜した2系統について、収量、糖度に加えて採苗性を調査しており、2014年度中に1系統を選抜する。また、2015年度中の品種登録申請に向けて、農業試験場で特性調査も実施している。

(栽培部 千賀泰斗)

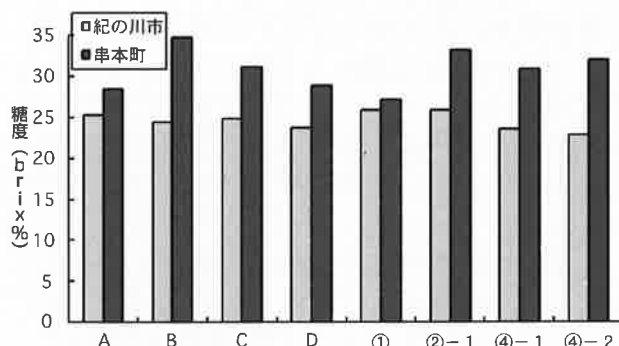


図2 供試系統の糖度

注) 紀の川市では蒸し芋に、串本町では焼き芋にした後に糖度を測定した。



系統②-1

系統C

図3 供試系統の外観